

令和3年度 ゆいの杜小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

豊かな関わりを生かして、よりよく生きる子供を育む

～ よく学び よく遊び 自分をつくる 未来をつくる ゆいの杜小 ～

(2) 目指す子供像

- 学ぶことを喜ぶ子供
- 他と豊かに関わる子供
- 自分を大切にすること子供

(3) 育むべき資質・能力

目指す子供像	学ぶことを喜ぶ子供 【知】	他と豊かに関わる子供 【徳】	自分を大切にすること子供 【体】
知識及び技能	○学びの実感をもつ子	○人の気持ちが分かる子	○自らの健康を大切にすること子供
思考力・判断力・表現力等	○自ら考え続ける子	○自分の思いや考えを分かりやすく伝える子	○安全に気を付けて生活すること子供
学びに向かう力、人間性等	○学びを生活に生かそうとする子	○周りの人や社会、自然と共に生きようとする子	○進んで身体を動かし、たくましさをもち続けようとする子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「未来に向かって、共に学びをつくる学校」

- 豊かな関わりを生かして、自分の学びをつくる学校
- 子供の成長を願い、教職員一丸となって真摯に指導に当たる学校
- 地域と共に子供を育む学校

合言葉 「笑顔いっぱい 友達いっぱい みんな大好き ゆいの杜小」

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

全職員が学校教育目標の共通理解に努め、調和の取れた教育活動を展開し、合言葉や具体目標の重点化を通して、教育目標の具現化に努める。

- (1) 常に「全ては子どものために」を念頭に置き、一人一人がゆいの杜小学校の職員であることの自覚と誇りをもって勤務し、公務員及び教職員としての資質や指導力の向上に努める。また、「働き方改革」の理念を踏まえた取組も推進する。
- (2) 職員一人一人が率先垂範の精神で児童の教育に当たり、その姿勢を通して児童に学ぶ意欲や思いやりの心を育てる。また、一人一人の児童の夢を育む教育活動「結いゆいプロジェクト」を推進するとともに、確かな学力、個性を生かした教育と生きる力の育成に努める。

○(3) 地域学校園内の小中学校はもとより、保護者や地域社会、各種団体との連携を密にし、地域の教育力を生かし、地域に開かれた信頼される学校にする。

[清原地域学校園教育ビジョン]自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて主体的に取り組む児童生徒の育成～人との豊かな関わりを通して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 本校教育課程は、日本国憲法・教育基本法・学校教育法及び同施行規則、小学校学習指導要領、並びに県の方針や「第2次学校教育推進計画（うつのみやいきいき学校プラン）」・「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」・「清原学校園教育ビジョン」に基づき、創意ある教育課程を編成する。
- (2) 本校教育目標・経営方針や努力点・学校課題等を踏まえ、児童の実態・特性、学校の施設・設備、職員組織の実態等を十分考慮して、心豊かでたくましく生きる児童の育成を目指して編成する。
- (3) 新学習指導要領及び宇都宮市小中一貫教育の趣旨を生かし、確かな学力を身に付けるための適正な時数の確保に努める。また、新学習指導要領における「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を一人一人の児童が確実に身に付けられるようにすることを目指して編成する。
- (4) 各教科・道徳科・特別活動・総合的な学習の時間及び外国語活動、相互の関連を図った系統的・発展的な指導を心掛け、児童の自主的・実践的活動や体験的な活動を多く取り入れた特色ある教育活動が展開できるよう編成する。なお「社会に開かれた教育課程」の観点から地域等の意見の反映にも努めたい。

(5) 開校に伴う様々な諸行事や新たな取組を進めるに当たり、学校長を中心に職員一丸となり、連携、協力を努め、ゆいの杜小学校ならではの斬新で、かつ充実した教育活動を展開していくことができるよう編成する。

また、ゆいの杜小学校への愛校心を高めるとともに、一人一人がゆいの杜小学校の児童であることに誇りをもつことができるようにするための活動を充実させる。 「ゆいの杜小 スタート・プロジェクト」

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学 校 運 営 】

- ・夢を育む教育活動の推進と教職員の資質・指導力の向上
- ・校内組織管理とボランティア活用による「働き方改革」の推進

【 学 習 指 導 】

- ・豊かな関わりを生かしながら、学びを喜ぶ児童の育成
—「生きる力」を身に付けるための指導の在り方—

【 児 童 生 徒 指 導 】

○相手の気持ちが分かり、友達と自分の思いを伝え合って積極的に関わり合える児童の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・自らの健康・体力の維持向上に関心を持ち、生涯にわたって健康で安全な生活をしようとする児童の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 児 童 の 姿	A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを明確にして児童に示すとともに、考える時間を確保したり授業形態を工夫したりして、児童が積極的に授業に取り組めるよう支援する。 ・高学年における教科担任制や道徳科のローテーション授業を実施し、複数の教職員が児童一人一人の頑張りや良さを積極的に認めたり称賛したりすることで、児童が自信を深め、意欲的に学習に取り組めるように支援する。 	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が94.5%、教職員が97.4%、保護者が92.8%で、いずれも数値指標を上回った。 ・教科担任制や道徳のローテーション授業を効果的に実施することで、学習意欲を高め、学習内容の定着を図れた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、授業のねらいを明確にし、考える時間を確保したり、授業形態を工夫したりするなどして、児童が積極的に学習に取り組めるよう支援する。 ・コロナ禍でもできる伝え合いの方法を考え、授業の中で取り入れていく。 ・教科担任制の研究をより深める。
	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動や学校行事などに縦割り班活動を取り入れ、上級生が下級生に関わる場を積極的に設定する。 ・道徳科の授業と他教育活動との関連を図り、思いやりのある豊かな心情を育む。 ・日常生活の中で、児童の親切な行動を称賛したり、紹介したりしていく。 	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が100%、保護者は94.6%、地域住民が91.7%、児童が93.1%と数値指標をすべて上回った。 ・年2回の清掃班の編制やドリームタイムでの活動を機会に捉え、上級生と下級生の関わりの場を設定できた。 ・日常的に児童の親切な行動を称賛する機会を確保した。 ・感謝の言葉を伝えることを生活目標として設定し、児童同士の親切な行いに対する気付きや称賛を促した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組を継続する。さらに、思いやりと感謝についての生活目標を設定する回数を増やし、児童への意識付けを行う。

<p>A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上</p>	<p>○「清原っ子の約束」や学習のきまり、「カテ学ふり返しシート」を活用し、望ましい行動習慣の形成を促すとともに、よくできたことについては積極的に称賛し、児童の意欲を喚起する。</p> <p>・学校教育目標との関連を図って週の生活目標を設定し、児童の実態や時期に応じた基本的な生活習慣（重点目標）の徹底を図るとともに、保護者の協力を得る。</p> <p>・学習や生活のきまりを定期的に振り返りながら、児童の実態を捉えるとともに、学年やクラスの実態に応じて重点的に指導する。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>・肯定的回答の割合は、教職員が100%、保護者は96.1%、地域住民が100%、児童が90.9%と数値指標をすべて上回った。</p> <p>・「ゆいっ子の約束」の家庭への配付により、望ましい生活習慣の形成を促したり児童を称賛したりすることができた。</p> <p>・きまりやマナーに関する生活目標を設定することで、意識向上を促した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・取組を継続させる。</p> <p>・生活のきまりを定期的に振り返らせ、自己評価させるとともに実態を把握し、必要な指導を行う。</p> <p>・児童の望ましい行動やよくできたことを称賛する機会を日常的にもつ。</p>
<p>A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上</p>	<p>○常時指導を強化するとともに、児童会主体の「あいさつ運動強化週間」を実施する。また、清原地域学校園、地域協議会、PTAと連携・協力してあいさつ運動を展開する。</p> <p>・教職員が率先してあいさつし、児童へのあいさつ意識を高める。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>・肯定的回答の割合は児童が90.9%と上回ったが、教職員が78.9%、保護者は74.7%、地域住民が84.6%と下回った。</p> <p>・清原中学校と合同で年2回のあいさつ運動を行い、意識付けを図ることができた。</p> <p>・あいさつに関する生活目標を設定することで、意識づけを図ることができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・あいさつ運動を引き続き行いつつ、強化週間を設け、意識向上を図る。</p> <p>・保護者や地域に運動の様子をHP等で発信し、あいさつの励行、ポケットに手を入れない指導を保護者・地域と共に行い、連携・協力の輪を広げていく。</p>
<p>A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>・学校行事や児童会活動、学級の係活動において、児童が主体的に活動できる場を随時設定し、個人や集団で目標達成に向けて根気強く組めるよう支援する。</p> <p>・学び合う場や協力し合う場を意図的に設定し、共に高め合い、励まし合いながら学習に取り組むことができるよう支援する。</p> <p>・学習や学校行事等において、目標を明確にし、ゴールを意識させることで、児童が見通しをもって努力し続けることができるようにする。また、「結ゆいプロジェクト」との関連を図りながら活動を進められるようにする。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>・肯定的回答の割合は、教職員が94.7%、児童が92.5%と数値指標を上回ったが、保護者は77%と下回った。</p> <p>・行事等が昨年度より増え、児童が主体的に活動できる場の中で、個人や集団で目標達成に向けて支援することができた。</p> <p>・各クラスでは、係活動や当番活動を自主的に取り組む姿が見られた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・次年度も活動が制限されることが予測されるので、児童が活躍する場を工夫していく。</p>

<p>A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・給食だより、保健だより等を活用し朝食の大切さや偏食について、保護者へ啓発を図る。また、「朝ごはん食べよう週間」を設定し、望ましい食生活の習慣化を図る。 ・「キラキラウィーク」を実施し、児童の歯磨きに関する実態の把握と啓発を図る。 ・登校班長会議や登下校指導、休み時間の生活指導を行い、事故の未然防止を意識させるとともに、自ら安全に生活しようとする習慣を身に付けさせる。 ・避難訓練や交通安全教室など、交通や災害に対する安全教育を強化するとともに、「ゆいっ子の約束」を活用して日常生活の中の危険について学年に応じて丁寧に指導する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が 94.3%、教職員が 100%、保護者が 92.6%で、いずれも数値指標を上回った。 ・健康安全共に授業や学校行事を通して、意識化を図るとともに、学校生活の中で児童の実態を把握し、適宜指導できた。 ・登下校の指導では、登校指導や班長会議、学年下校指導を通して事故を未然に防ぐことができた。 ・年間3回の避難訓練（地震火災・竜巻・不審者）や1年生の引渡し訓練を実施し、各学級において発達段階に応じた振り返りにつなげた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度は全校児童が、100名程度増えることを踏まえ、学校生活の中の危険について職員であらかじめ共通理解を図りながら、児童の指導にあたる。 ・保護者や地域の安全ボランティアと連携を図りながら、児童が健康安全を意識した行動を習慣化できるようにさせる。
<p>A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 ※A 5で評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や児童会活動、学級活動、クラブ活動において、児童一人一人が自分の役割を果たせるようにするとともに、活動を振り返り、今後の生活に生かせるよう支援する。 ・「結ゆいプロジェクト」を推進するとともに、道徳科や学級活動を通して、自他の良さが認められる場面を設定し、児童の自己肯定感や自己有用感を高める。 ・ローテーション道徳により、他学級の児童の良さを教員同士で共有したり、キャリアパスポートを活用して、児童に自分の夢と向き合うきっかけを作ったりする。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が 94.7%、児童が 92.5%と数値指標を上回ったが、保護者は 77%と下回った。 ・ローテーション道徳を各学年で行い、一人の教員だけでなく学年の教員が他学級の児童の良さを知り、共有する時間を設けた。 ・総合的な学習の時間では、ゆいの杜の未来を考えたり、地域や社会の課題を考えたりする時間が確保された。 ・キャリアパスポートを活用し、児童が自分の夢と向き合う時間を設けた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人だけでなく、学級全体、児童会活動などにおいても、めあての達成に向け、個々の役割を果たせるように支援していく。 ・今年度同様、ローテーション道徳など様々な教育活動の中で、全児童の良さを教員で共有する。 ・クラスタイムを活用し、結ゆいプロジェクトの充実を図る。

<p>A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTを効果的に活用し、英語でのコミュニケーションに親しむ機会の充実を図る。 ・ALTによる読み聞かせ等を実施し、授業以外にも英語に親しめるよう努める。 ・英語専科教員が中心となって、校内研修を開催し、教職員の資質向上を図る。 	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が90%、教職員が100%といずれも数値指標を上回った。 ・ALTと事前に打合せを行い、役割分担を明確にすることによって、ねらいに沿った授業を展開することができた。 ・豊富な資料を効果的に授業に活用することができた。 ・校内に英語の掲示物を設置し、触れる機会を増やした。 ・給食時に英語の絵本の読み聞かせビデオを流し、授業以外でも英語に親しむ機会を設けた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語科主任が中心となって、校内研修を開催し、教職員の資質向上を図る。
<p>A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科や総合的な学習の時間での調べ学習や校外学習・地域人材を活用した学習を通して、清原地区や宇都宮の良さを意識できるようにする。 ・身近な地域の良さを踏まえ、市全体の特徴を捉えられるよう学習活動を工夫していく。 ・宇都宮市の行事やイベントなどのお知らせを配付する際には、宇都宮の良さを知らせるようにする。 	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が80.4%、教職員は81.6%と数値指標を上回ったが、保護者が57.9%と下回った。 ・生活科や社会科、総合的な学習の時間や道徳、外国語科を通して、宇都宮のよいところを探したり、他の地域と比べたりすることができた。 ・校内放送で「宇都宮の歌」を流すことで、自分たちの住む宇都宮を知るための機会を設けた。 ・給食では、「宮っ子ランチ」を実施し、地産地消の考えを促した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「宇都宮学」を中心に、継続して、宇都宮市全体や他地区との比較検討をすることで理解を深める。 ・清原・ゆいの杜の地区の協力を得て、地域のよさを学習する機会を設ける。 ・学年便りや学校便り、学校ホームページ等を利用して、児童が宇都宮についての学習を行っていることを周知していく。

<p>A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科、領域において、一人1台のタブレットを効果的に活用した授業を発達の段階に応じて継続的に実施する。 ・プログラミング教育において、児童にパソコン活用に対する必要性の意識を高めていく。 ・担任と学校図書館司書が連携を深めながら、各教科の調べ学習において、学校図書館の積極的な活用を図る。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が89.8%、教職員が100%で、いずれも数値指標を上回った。 ・教科を問わず、調べ学習を通して、積極的にタブレットを活用した授業を行うことができた。 ・学校図書館司書と連携し、テーマに応じた本を集めてもらい授業の展開に活用した。 ・デジタル教科書や実物投影機を使用し、視覚的に分かりやすい授業に努めた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内読書週間を次年度も実施し、本に触れる機会を確保し、各教科での調べ学習などにも活用するなど、自分が興味ある分類の本以外も積極的に読めるように促す。 ・プログラミング教育において、児童のタブレットに対する必要性の意識を高めていく。 ・図書とタブレットどちらも活用できるように、時間を意図的に調整する
<p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわり的心をもっている。</p> <p>【数値指標】 ※A2で評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止対策に配慮しながら昔遊びや出前講座等、高齢者と触れ合う機会を設定し、交流を図る。 ・「感謝の会」を実施し、登下校の見守りや読み聞かせ、学習等で支援を受けた体験を振り返り、感謝の気持ちをもたせる。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が100%、保護者は94.6%、地域住民が91.7%、児童が93.1%と数値指標をすべて上回った。 ・感染防止対策を行いながら、火おこし体験や昔遊び、読み聞かせ、登下校での見回り等の機会を設け、高齢者の方と関わる機会があった。 ・行事で関わり合いがあった後や、各ボランティアで支援を受けた体験を年度末に振り返り、感謝の気持ちを手紙で表す機会を設けた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行った行事に関して、HP等で情報を発信していく。 ・感謝の気持ちを手紙で書く時などに、教職員が高齢者を意識した声掛けなどを行っていく。

<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の学習を通し、身近な自分の生活と持続可能な社会との関わりを考えさせるなどして、福祉や環境、異文化交流への関心を高める。 ・生活科や理科、道徳の授業、委員会活動を通して、環境保全に目を向けたり動植物を思いやる心を育てたりする。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が 88.5%と数値指標を上回ったが、教職員は 71.1%と下回った。 ・環境委員会の「リサイクル用紙回収」などを通して、環境への意識や思いやる心を高めた。 ・総合的な学習の時間で、環境に対する意識やこれからできることを考えたり、盲導犬とのふれあい体験を行ったりする中で、福祉への理解を深めた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も継続して、実施した活動が何につながったのかを明確にするために各種便りに結果を掲載したり、校内放送で周知したりすることで、共通理解を図る。 ・物を大切にすることを育むために、物への記名を啓発したり、普段の生活の中で、今自分が使用している学校の備品を将来の児童も使用できるように意識させたりする。 ・学校図書館司書と連携し、「持続可能な社会」についての資料を把握しておき、指導に生かせるようにする。 ・環境委員会の活動内容を状況に応じて、幅を広げていくとともに、「持続可能な社会」や「SDGs」についても発信していけるようにする。
<p>B1 児童は家庭学習の習慣が身に付いている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の 肯定的回答80%以上</p>	<p>○「清原っ子の約束」「ゆいっ子の約束」「家庭学習のすすめ」を活用したり、「カテ学振り返り週間」を設定したりして、家庭学習の重要性について保護者への啓発を図り、指導の効果を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動で家庭学習の仕方を指導し、目安となる時間や内容を提示したり、実践している児童を称賛したりして、児童が家庭学習に取り組もうとする意欲を高める。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が 97.4%、児童が 85.3%と数値指標を上回ったが、保護者は 75.1%と下回った。 ・「家庭学習振り返り週間」の設定により、学習習慣の定着が図られつつある。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携を図り、自主的に学習に取り組む態度を養いたい。 ・それぞれが明確なめあてをもつ時間を学級活動などで設けて、意識して取り組めるようにする。 ・「家庭学習のすすめ」を参考にして、低学年から自主学習に取り組ませていく。 ・「家庭学習振り返り週間」を年に2回設定し、家庭と協力して家庭学習の質を高めていく。 ・スタンダードダイアリーの家庭学習時間の欄を活用し、毎日継続して記入できるように声掛けをしていく。

目 指 す 学 校 の 姿	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援委員会を通して教職員間の情報共有を図るとともに、学級や学年間の情報交換を密にして広く児童理解に努め、組織的に児童の支援に当たる。 ・ケース会議や教育相談の充実を図り、児童一人一人のニーズや悩みを把握し、関係機関との連携を図りながら、個に応じた支援を展開する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が100%で数値指標を上回った。 ・年間2回の校内支援委員会を中心として、月1回程度の情報交換会や日常的な教員同士の情報交換を機会に共通理解を図り、適切にケース会議等を行うことにより、一人一人のニーズに応じた組織的な支援を行うことができた。 ・迅速かつ適切な役割分担の下、ケース会議を行うことができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内支援委員会、月1回の情報交換会等を密に行うとともに、管理職・学年の教員・教育相談担当教員・特別支援担当教員・SC等、と連携・協力して児童一人一人のニーズや悩みを把握して解決に努める。また、必要に応じてケース会議の開催をする。
	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関するアンケートや教育相談を有効に活用し、事実の把握に努めるとともに、いじめは許されない行為であることを徹底指導できるよう、様々な機会を生かして継続的な指導を行う。 ・道徳科において、いじめに関わる授業の充実を図るとともに、児童の小さな変化にも気を配ることで、いじめの早期発見、早期対応に努める。 ・スマートフォンや携帯電話の使い方については、各学級、学年において実態に応じた指導を行う。 ・いじめ認知の際は、「いじめ対策委員会」を設置し、組織的に対応する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が100%、地域住民が100%、児童が97%と数値指標を上回ったが、保護者は79.9%と下回った。 ・いじめゼロ強調月間を通して児童への啓発を行ったり、いじめに関するアンケートや教育相談を基に事実の把握をしたりすることができた。また、日常的な指導の中で、いじめは許されないことを継続して指導してきた。 ・スマホ・ケータイフィルタリング設定100%キャンペーンを機会に、全学級で同日に行うことで効果的な指導ができた。また、リーフレットやメール配信により、保護者への啓発にもなった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関する情報交換を常時行い、迅速に組織的に対応できるよう、全教職員が報告・連絡・相談を確実に行う。 ・いじめゼロ強調月間の活動等、学校での取組を児童指導だより等で、保護者に発信していく。具体的には、いじめゼロ標語を保護者と共に作成することとしたり、クラス代表作品を家庭に知らせたりしていく。 ・日頃の道徳教育や日常でいじめについての指導を適宜行っていく。
	<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人が存在感をもち、自己実現の喜びを実感できる学級経営を実践する。 ・「結ゆいプロジェクト」を推進し、児童同士、担任と児童との良好な関係を築く。 ・ケース会議や教育相談の充実を図り、児童一人一人のニーズや悩みを把握し、関係機関との連携を密に行いながら、個に応じた支援をする。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が100%、保護者は90%、児童が95.4%と数値指標をすべて上回った。 ・教職員の不登校に関する意識は高く、職員会議などで常に情報交換を行い、同じ認識の下、児童に関わることができている。 ・学年会が頻繁に行われているため、学年間の交流が行われている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級懇談会や学年だよりの機会を通して、不登校対策についての取組を保護者・地域に情報を提供していく。

<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 ※A13で評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語ボランティアを活用し、個に応じた日本語指導を充実させる。 ・日本語指導での学びが学級内で生かされ、当該児童の学校生活の充実につながるよう、担任との連携を密にする。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が100%で数値指標を上回った。 ・日本語ボランティアを活用し、個に応じた学習を行うことができた。 ・保護者と密に連絡し合い、連絡帳だけでなく電話で直接話すなど工夫をした。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も国外からの児童の編入学が予想されるため、より一層当該児童への学習面や生活面、保護者へのサポートを充実していく。 ・今年度同様、日本語ボランティアを活用し、担任と連携をしながら当該児童の学校生活を支援していく。
<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 95%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「笑顔いっぱい 友だちいっぱい みんな大好きゆいの杜小」の合言葉の浸透を図り、活気のある学校づくりを進める。また、HPや学校だよりを通して、学校の取組を保護者や地域に情報発信し、理解と協力を求める。 ・共遊・児童会集会活動・縦割り班活動等を工夫、改善しながら、児童が生き生きと活動する教育活動を展開する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が100%、地域住民が100%と数値指標を上回ったが、保護者が91.0%、児童が89.5%と数値目標を下回った。 ・HPや学校だよりを通して、学校の取組を保護者や地域に情報発信してきた。 ・コロナ禍で活動が制限される中、工夫しながら児童会活動や縦割り班活動を実施してきた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や児童会活動において、合言葉をスローガンにするなど工夫して合言葉の浸透を図り、活気のある学校づくりを進めていく。
<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内で授業の進め方、課題の明確な提示、板書の仕方等の共通理解と共通実践に基づき、日々の授業の充実を図る。 ・朝の「学習タイム」を活用し、課題の質・量・手立て等を工夫しながら基礎学力を確実に定着させる。 ・教科担任制により、専門的な見地から授業の質を高める。 ・専科や特別支援教育担当と情報交換を密にしながら共通理解を深め、個に応じた学習指導の充実を図る。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が96.4%、教職員が100%と、数値指標を上回ったが、保護者は83.7%と下回った。 ・授業の進め方や板書の仕方については、共通理解や共通実践が進んでいる。 ・個に応じた指導、特別支援学級、日本語指導、かがやきルームの対応等により、児童一人一人のニーズに応じて効果的に支援することができた。 ・教科担任制の効果的な実施により、学力向上を図ることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習の時間に効率よく学習できるように、引き続き課題の質・量・手立て等を工夫しながら支援していく。学年で計画を立てて、学習の見通しをもたせる。 ・特別支援教育担当、学級担任等の連携を深め、より個に応じた指導の充実が図られるようにする。 ・学校ホームページ等を利用して、一人一授業や板書の様子を公開する機会を多くする。

<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や授業の準備等、学年や分掌内の役割分担を的確に行い、連携を密にして教育活動を行う。 ・かがやきルーム指導員、学校図書館司書、日本語ボランティア、SC、ALT等と積極的に情報交換を行い、教育活動が効率的に機能するよう取り組む。 ・校務分掌や学習指導、児童指導等において、OJTを実施していく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は、100%と数値目標を上回った。 ・個々の役割を行うだけでなく、校務分掌等の垣根を越えて、相互に協力して業務に当たることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の役割と責任を明確にした上で、主務者の負担軽減をするために、複数の担当職員が確実な業務分担をして相互に協力しながら業務を行う。
<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「働き方改革プロジェクト」の検討を踏まえ、取組を着実に実施し、業務の効率化を図る。 ・リフレッシュデーを毎月設定し、計画的な業務遂行に努める。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は、100%と数値目標を上回った。 ・「働き方改革プロジェクト」の取組を着実に実施し、業務の効率化を図っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優先順位を付けて業務に当たるなど、個々の教職員の取組を継続する。 ・月に1回のリフレッシュデーを着実に実行する。
<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○6年児童の進学先中学校訪問、児童生徒指導強化連絡会を通して、小中学校の情報交換を密に行うことで、6年児童の中学校進学をスムーズに行う。 ○地域学校園の各部会の検討を通して、小中学校の教職員が目標を共有しながら取組を進める。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が97.4%、地域住民が100%と数値目標を上回ったが保護者は62.4%、児童が66.1%と下回った。 ・新型コロナウイルス感染症を予防するために中学校生徒と小学校児童が直接関われる活動を行うことができなかった。 ・児童生徒指導強化連絡会や巡回指導の機会に中学校や各小学校との情報交換を行い、児童生徒に関する共通理解や学校園としての課題の把握に努めた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生と関わる機会を検討し、学校園としての意識をもたせる。 ・中学校訪問時に、6年生を中心に中学校での生活のきまりを事前に伝達する機会をもつ。

<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材や企業等の出前授業を効果的に取り入れたり、地域の幼稚園、保育園との交流を実施したりするなど、専門的、体験的な学習活動を行う。 ・地域協議会やPTA常任理事会等でそれぞれの意見を吸い上げ、児童の指導や教育活動の向上に活かす。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が97.4%、地域住民が92.3%、児童が86.8%と数値指標を上回ったが、保護者が79.8%と数値目標を下回った。 ・地域の教育力を生かした活動は、地域協議会やPTA常任理事会等の意見を吸い上げながら計画をし、コロナ禍においても実施できたものにおいては、成果を十分上げることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会やPTA常任理事会等と連携し、ボランティアの協力を効果的に得ながら教育活動の充実を図る。
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ※A22で評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域協議会を中心に、学校・家庭・地域が一体となって、児童の安全確保や健全育成の取組を更に強化する。 ○地域コーディネーターを通して、保護者・地域・企業等と連携したり、学校支援ボランティアを活用したりしながら授業や学校行事における教育活動の充実を目指す。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合はA22に同じ。 ・地域や保護者と連携した登下校の見守り等を継続して実施し、児童の安全を確保できた。 ・地域コーディネーターやPTA役員を通して、可能な限り教育活動の充実を図ることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア人材バンクを蓄積していく。 ・地域の教育機関や企業等との連携を強化していく。
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 教職員・保護者の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の安全点検を着実に実施し、危険箇所を発見した場合は速やかに修繕する。 ・各種、学校の行事を実施する際には、来校された方々の安全にも配慮するなど適切な環境づくりに努める。 ・校内や学校周辺で危険が予想されるときには、メールや学校だより等により周知を図るとともに、学校の取組を積極的に発信する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が100%、保護者が94.8%で、いずれも数値指標を上回った。 ・毎月の安全点検を実施し、危険箇所の早期発見や事故の未然防止に努めた。 ・校内電話が充実していることで、様々な報連相が迅速に行えた。 ・校庭の遊具を安全にトラブルなく使用させるために、学年に応じた優先を表示した。 ・児童が通行禁止のエリアには、カラーコーンなどで、視覚的に分かりやすく努めた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの方が来校する学校行事では、いろいろな立場での動線を考え、計画に反映する。 ・学校での安全に関する活動を保護者により知ってもらえるように、簡単な文章や写真と共に学校ホームページへの掲載で発信する。 ・今年度の反省を生かし、昇降口使用の組み合わせを工夫する。 ・昇降口前のアスファルト部分を走って通る児童が依然多いので、定期的に指導する。

<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 ※A10で評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンやデジタル教材等、ICT機器の整備に努めるとともに、授業研究会を通し、教職員の指導力向上を図る。 ・児童や教師のニーズ、学習や発達の段階に応じた図書を整備していく。また、地域の歴史を素材とした資料の整備等、潤いのある環境づくりに取り組む。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、A10に同じ。 ・職員研修で、GIGAスクールのプロジェクトチームを中心にタブレット活用やプログラミング教育に関する研修を行い、指導力の向上を図った。 ・学校図書館司書の協力を得て、学校図書館や市立図書館から授業に必要な資料や図書を準備し、充実した調べ学習ができた。 ・読書週間を設定するなどして、児童が本に親しむ機会を意図的に増やし、興味関心を高めた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい教科書の内容に沿った資料をそろえ、授業に対応できるよう蔵書整備を行う。幅広い資料を選定できるよう、全職員が資料を選択できる環境づくりを行う。 ・6年間を通して「読書記録」を記入し続けることで、自身の読書傾向を知る手掛かりにし、読書の質を高めていく。 ・教職員で選定した必読図書を学級文庫にプラスしていくことで、児童が多くの方の図書に触れ、興味に偏りがでないようにする。 ・導入された一人一台タブレットを用いて、互いの意見を交流させるなど、発達段階に応じた活用法を模索していく。
<p>B2 教職員は学校課題に関する研究やカリキュラムマネジメントに取り組み、児童のコミュニケーション力を身に付けようとしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校課題に基づいて、研究のねらいを明確にしながら協働的に研究を進める。 ・一人一授業を公開し、児童の学びの姿を参観し合い、指導法について意見を交わすことによって授業改善に努める。 ・新型コロナウイルス感染症予防に配慮しながら主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が100%と数値指標を上回った。 ・児童のコミュニケーション力の実態を明らかにし、身に付けたい力やそのための手立てを話し合いながら実践を進めた。 ・一人一授業や授業研究会等を通して、指導内容や指導方法の工夫改善について意見交換を行った。 ・教科担任制の導入やローテーション授業により、十分な授業研究の時間が確保でき、指導の工夫改善につながった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制の研究を深めることで、各教科の特性を効果的に活用させ、コミュニケーション力を伸ばしていく。 ・全国学力テスト、学習内容定着度調査、とちぎっ子学習状況調査等の結果を分析し校内研修等で検討することにより、引き続き指導内容や指導方法の工夫改善を図っていく。

本校の特色・課題等	<p>B3 教科担任制によって、児童の教育効果を上げることができた。</p> <p>【数値目標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当する教材研究を深め、専門的見地から授業改善に努める。 ・教職員間で児童の学習や生活に関する情報交換を密に行う。 ・児童の興味関心や良さをき出した授業展開を実践する。 	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が100%、地域住民が100%、児童が93.9%と数値指標を上回ったが、保護者が86.9%と数値目標を下回った。 ・担当する教科の授業改善に努め、児童の興味関心や良さを引き出した授業展開を実践することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科ごとに授業改善に努め、児童の興味関心や良さをさらに引き出していく。 ・HPや学年だよりに教科指導の情報を掲載し、教科担任制についての情報発信に努めていく。
	<p>B4 学校は、児童が夢を育む教育活動を推進している。</p> <p>【数値目標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「結ゆいプロジェクト」を推進し、児童一人一人が充実感や達成感を味わえる取組を積極的に行う。 ・縦割り班活動や異学年交流の充実を図り、互いを認め、互いを大切にすることを育てる。 <p>【清掃、レインボータイム等】</p>	A	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が97.4%、地域住民が90.9%、児童が90.9%と数値指標を上回ったが、保護者は80%と下回った。 ・なかよしまつりを行ったりレインボータイムや清掃で異学年交流を行ったりすることによって、上学年に憧れの気持ちや互いを尊重する気持ちをもつことができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPや学年だよりで情報を発信していくとともに、保護者や地域の方に写真を使う等し、学年で工夫しながらPRをする。
	<p>B5 学校はPTAや地域、行政と連携しながら、開校をスムーズに進めてきた。</p> <p>【数値目標】 教職員・保護者・地域の肯定的回答80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会や保護者懇談会において情報を発信していく。また、保護者や地域の願いを反映できるよう、連携を密にしていく。 	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が100%、保護者が89.6%、地域住民が92.3%と数値指標を上回った。 ・コロナ禍のため保護者懇談会は中止となってしまったが、地域協議会や個人懇談において情報を発信することができ、連携を密にすることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の方の願いを反映していくために連携を密にしていくとともに、地域協議会や保護者懇談会等で情報発信をしていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

- ・今年度本校は開校初年度であったが、学校、地域、PTA、各関係団体が連携、協力しながら教育活動に取り組んだ結果、学校評価アンケートの肯定的な割合が、比較的高い。
- ・児童の評価では、A21「小中一貫・地域学校園の取組を行っている。」の項目を除き、19項目において80%以上の児童から肯定的評価を得ており、児童の自己肯定感や自己有用感は比較的高い水準と思われる。
- A3「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」の項目では、数値指標をすべて上回った。また教職員、保護者、地域、児童の肯定的回答の割合が宇都宮市平均より上回っている。今後も引き続き、きまりやマナー、生活や学習の指針を児童と共に確認・浸透・定着を図っていく。
- A4「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」の項目では、児童は数値指標を上回ったが、保護者、教職員地域住民に関しては下回った。コロナ禍で地域学校園でのあいさつ運動の中止や児童主体のあいさつ運動が制限されたが、次年度は児童主体のあいさつ運動を展開・推進し、取組の実績を情報発信していく。
- ・A6「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」の項目は、教職員、保護者、地域住民、児童のすべてにおいて数値

指標と市の平均を上回った。児童は、新型コロナウイルス感染症予防対策を取りながら健康に配慮したり、安全への意識を高めたりしながら落ち着いた学校生活を送ることができている。

・A9「児童は、宇都宮の良さを知っている。」の項目では、教職員、児童は指標を上回った。「宇都宮学」の学習が充実してきた結果でもあるが、保護者の肯定的割合は6割に届かなかったので、地域に愛着がもてるような活動や清原地域を中心とした宇都宮市の特色を理解できるような指導を工夫改善し、保護者にも学習内容を知らせたり、学習支援ボランティアとして参加していただいたりしていく。

・A10、A25「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」「学校は、学習に必要なICT機器や図書等を備えている。」の項目では、教職員、保護者、児童のすべてにおいて、指標を上回った。GIGAスクール構想による1人1台タブレット型パソコンの活用を行ってきたためであろう。今後はさらに積極的に授業中や家庭学習においてタブレットを活用するとともに、プログラミング教育の充実を図る。

○A21「学校は、『小中一貫・地域学校園』の取組を行っている。」の項目は、児童が66.1%と指標を下回った。また保護者が62.47%と市の平均肯定率より低い。小中連携した行事が6年生の乗り入れ授業は実施できたが他の行事が中止になり、やむを得ない結果であったとも考えられる。

○A22「学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している」の項目では、教職員、地域住民、児童が数値指標を上回ったが、保護者は下回った。今年度開校し、地域協議会を立ち上げて、登下校の安全見守り活動の支援があった。また、コーディネーターから地域へのボランティア募集等で生活科や社会科の教育活動の支援があった。次年度も新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら、保護者や地域のボランティアの協力を得たり企業等の出前授業を活用したりするなど、特色ある教育活動の充実を図っていく。

・A24「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」の項目は、数値目標をすべて上回り、特に保護者回答は市の平均より4.8%上回った。新設校の新しい施設を有効利用しながら安全に配慮した教育活動を引き続き行っていく。

・B3「学校は、教科担任制によって児童の教育活動を上げようとしている。」の項目では、教職員、児童、地域住民の肯定的回答の割合は数値指標を上回ったが、保護者はやや下回った。今年度は緊急事態宣言下のため教科担任制の授業参観を中止したため保護者への理解がやや低かったかと思われる。次年度は授業参観やホームページや便りを活用して授業の実践を情報発信していく。

7 学校関係者評価

・校内では来客に対しても挨拶が良くできている。しかし登校時はなかなかできていない児童もいるので、どの場所で挨拶をしたらよいかを知らせたり、登校班の班長から進んでボランティアや立哨してくれている保護者に挨拶ができるような指導をしたりすると良いのではないかな。

・大人が見本を示し、保護者も地域も自分から児童に対し挨拶をして手本を示していくようにしていきたい。

・一人一台タブレットの授業を参観したが、1年生から進んで取り組めていて素晴らしいと感じた。休業中にもオンライン学習ができてタブレットは道具としてだけでなく、自分の考えや写真などをスライドにする学習によって創造性を養う良さを感じた。

・新設校で、校庭の周りの木々が育っていないため、全体的に緑が少なく感じる。今後地域協議会の活動として花壇に紫陽花や花々を植える活動をしていきたい。

・自治会の仕事をしている時にも「こんにちは」や「お疲れ様」と児童から挨拶をしてくれていて学校や家庭の指導が行き届いていると思う。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・新型コロナウイルス感染症予防のため、学習活動や学校行事などが縮小・削減されたにもかかわらず、児童の自己評価は、全体的に高い結果となった。今後も、児童が主体的に活動できる場を意図的・計画的に設定し取組を工夫していくとともに、個に応じた支援を充実させることで児童の自己肯定感や自己有用感を高めていく。
- ・「結ゆいプロジェクト」の人との関わりのある活動・実践を通して、コミュニケーション力や良好な人間関係づくりに努め、児童一人一人が自己実現の喜びを実感できる学級経営を推進する。
- ・レインボータイムや児童会主催の活動を拡充させ、主体的に人と関わる力やクラスや学年・学校としてもまとまりを育んでいけるような取組を推進する。
- ・次年度も各種便りの発行や学校ホームページ等を通して積極的に情報を発信し、学校の取組を理解していただくとともに

家庭や地域と連携を図り、協力や支援を得られるように努めていく。

【学習指導】

- 家庭学習の充実・習慣化を図るため、「家庭学習ふり返し週間」を年2回設け保護者に協力を求める。
- ・高学年において教科担任制を進め、児童の授業への意欲や専門性を高めることができるようにする。
- ・校内研修を通して重点目標の共通理解を図り、授業の実践・公開をするとともに自己研修に積極的に取り組み、教職員としての資質・能力や指導力の向上に努めていく。

【児童指導】

- 「進んであいさつをする」望ましい態度を更に身に付けていけるよう、児童の主体的な取組を積極的に支援し、あいさつ運動等の活動を活性化していく。また、家庭や地域にも学校の取組を伝え、連携して支援ができるよう協力を求める。
- ・「いじめ」や「不登校」の問題を解決するためには、保護者や関係機関、地域との連携が必要であることから、地域協議会や学級・学年懇談会等の機会を利用して必要な情報を提供する。
- ・いじめの未然防止・早期発見・対応・解決に向けた学校の取組を伝え、学校の信頼をより高められるよう努めていく。また、いじめ防止に向けた児童の主体的な活動を支援するとともに、友達とよい関係を築く力を身に付けさせる。

【健康（体力・保健・食育・安全）】

- ・「元気っ子健康体力チェック」の結果を基に、教科体育において十分な運動量を確保するとともに指導法を工夫し、個々の運動への関心を高めるとともに体力の向上に努める。
- 水泳、鉄棒、縄跳びなどがんばりカードの活用や健康教育・食育に関わる便りの発行やイベントの実施など、地域学校園共通の取組を次年度も継続させていく。